

教科目名 プロジェクト演習Ⅱ（Projected ExerciseⅡ）

専攻名・学年：全専攻 1 年（教育プログラム 第 3 学年 ○科目）

単位数など：選択 2 単位（前期 1 コマ，後期 1 コマ，学習保証時間 45 時間）

担当教員：穴井孝義，Christine Meister（後期から）

授業の概要			
学会発表をする場合は、あらかじめ「題目」と「アブストラクト」を提出し、審査を受けるのが一般的である。本授業は、自分で英文アブストラクトが書けて、それを基に英語でのミニプレゼンテーションができるようになることを目標にする。本来は各自が専門とする分野でのリサーチ及びプレゼンテーションが望ましいが、クラスの全学生が話題を共有できるようにするために、リサーチのテーマはプラグマティクス（語用論）とする。前半は、まず、テキストに従ってプラグマティクスについての考察を加えていく。また、英文アブストラクトや英語によるプレゼンテーションの中で頻繁に使用される英語表現をマスターする。後半は、夏休みに各自で行ったミニリサーチに基づいて実際に英文アブストラクトを作成し、最終的にはそれを基にミニオーラルプレゼンテーションを行う。			
達成目標と評価方法		大分高専目標 (G2), JABEE 目標 (f)	
(1) 英文アブストラクトを作成する際や英語による講義またはプレゼンテーションを行う際に頻繁に登場する英語表現がマスターできるようになる。(前期末試験)			
(2) 200 語から 250 語程度の英文アブストラクトが書けるようになる。(課題)			
(3) 英文アブストラクトを基に英語でのミニプレゼンテーションができるようになる。(後期末試験に代替する発表会)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	授業オリエンテーション	授業の概要説明.	【理解の度合い】
2	Chap. 1・英語表現指導 (※以下毎週)	Greeting・ESP の解説と指導 (※以下毎週)	
3	Chap. 2	Communicative Competence	
4	Chap. 3	What is Pragmatics?	
5	Chap. 4	Speech Acts	
6	Chap. 5	A Speech Act, Apology	
7	Chap. 6	Conversational Implicature	
8	Chap. 7	Indirect Speech Acts	
9	Chap. 8	Politeness (1)	
10	Chap. 9	Politeness (2)	
11	Chap. 10	Politeness in Making a Request	
12	Chap. 11	Cross-cultural Pragmatics	
13	Chap. 12・リサーチの内容決定	Conducting Research	
14	リサーチの報告とこれまでの復習		
15	前期期末試験		【試験の点数】 点
	前期期末試験の解答と解説		
16	Listening/Speaking 演習 (以下毎週)	Listening/Speaking の演習 (以下毎週)	【理解の度合い】
	Chap. 13	Title Making and Abstract Writing	
17	Chap. 14	Writing the Abstract in English	
18	Academic Writing	Written English と Spoken English	
19	Abstract Writing 指導	個別に Abstract Writing 指導	
20	同上	同上	
21	Chap. 15	Preparing for a Presentation	
22	Chap. 16	Examples of Presenting a Research Paper	
23	Chap. 17	Giving a Presentation in English	
24	A Model Presentation	模範プレゼンテーションと解説・発表指導	
25	Writing Manuscript for Presentation	個別に Manuscript Writing 指導	
26	同上	同上	
27	Practicing Speaking & Delivery	話し方とデリバリーの指導	
28	Presentation Rehearsals	プレゼンテーションリハーサルと指導	
29	Presentation Rehearsals	同上	
30	後期期末試験	プレゼンテーション (発表会)	【試験の点数】 点
	後期期末試験の解答と解説		
履修上の注意		(1) 日頃から英語に接する時間を確保して英語センスを養うこと. (2) 人前で発表する際の自分の弱点を克服していくこと. (3) 自動翻訳機を絶対に使用しないこと.	【総合達成度】
教 科 書		配布プリント, 田中典子『プラグマティクス・ワークショップ』, 春風社.	
参 考 図 書		加藤幸雄, 『プレゼンテーション英語文例集』, ダイヤモンド社.	
事前準備学習		教科書 Chapter 1 から Chapter 11 までの英文 TEXT を何度も読み, 知らない語句がないように調べておくこと.	
関 連 科 目		英語 A, 英語 B, 現代英語 I, II	
総 合 評 価		達成目標の (1)~(3) についてそれぞれに 3:3:4 の重みをつけて 100 点法で総合評価する. 総合評価 60 点以上を合格とする.	【総合評価】 点